

令和 2 年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

I 委託事業の内容

1. 研究開発課題名

地域の食・農・環境の持続的な発展に貢献する人材育成の研究

— 新たな技術や発想を取り入れた農業を創造する “G I N O B r a n d” を目指して —

2. 研究の目的

本校がこれまで構築してきた地域や企業、大学、研究機関等との連携実績を生かし、地域の多様な分野の企業、機関等との協働による研究活動をより強固なものとして、社会の変化や産業の動向に対応できる人材を育成する。また、グローバルな視点から農業生産、食品加工、環境保全について考えることができ、地域農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養い、将来の地域農業を担うことができる人材を育成する。特に、本県において今後需要の拡大が見込まれる地域ブランドの展開においては、高度な知識・技術に加え、知的創造サイクルや農業生産工程管理・品質保証システムの活用による、商品価値の向上を目指す中で、知的財産マインドに則り、課題解決ができる力や経営スキルを備えた人材を育成する。さらには本県農業の担い手確保の観点から、ICT や AI、IoT 等を活用したスマート農業を展開できる能力を養成し、地域の第 1 次産業の発展に貢献するとともに、地方創生をリードできる人材を育成する。

(本校の目指す人材育成の内容)

“G I N O B r a n d” の構築による人材育成

※岐農ブランド “G I N O B r a n d” = 「地域と連携して創り出す独創的な製品」と「知的財産マインドと課題解決能力を備え、地方創生をリードできる人材」を指す。

(1) 「もの」を創造できる能力の育成

栽培や生産方法の改善、新たな実験技術の考案や工夫、農業の各分野に応用できる能力等、製品だけでなく知的産物を含む、「もの」を創造できる能力の育成を通して、社会の変化や産業の動向に対応できる人材を育成する。

(2) 地域の実態に応じた課題発見や課題解決能力の育成

地域資源を活用した地域や企業、大学等との連携を強化し、農業情勢の動向や地域産業の実態に応じた課題発見や課題解決能力の育成を通して、地域農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度と、将来の地域農業を担うことができる人材を育成する。

(3) 安全で安心な価値の高い食品ブランドづくりができる能力の育成

高度な知識・技術や、品質保証システムの活用による商品価値の向上を目指し、安全で安

心な価値の高い食品ブランドづくりができる能力の育成を通して、知的財産マインドや課題解決能力、経営スキルを備えた人材を育成する。

(4) 生産方法を工夫した農産物ブランドづくりができる能力の育成

ICT や AI、IoT 等を活用したスマート農業を展開できる高度な知識・技術を身に付けるとともに、農業生産工程管理の活用による商品価値の向上を目指し、生産方法を工夫した農産物ブランドづくりができる能力の育成を通して、地域の第1次産業の発展に貢献し、地方創生をリードできる人材を育成する。

(5) 環境に配慮した技術活用ができる能力の育成

地域環境保全の観点に立ちながら、地域の価値を高める里山環境を創り出したり、食料生産と生物多様性の保全を両立させたシステム開発に挑んだりするなど、環境に配慮した技術活用ができる能力の育成を通して、地域農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度と、将来の地域農業を担うことができる人材を育成する。

3. 実施期間

契約日から令和3年3月12日まで

4. 当該年度における実施計画

(1) 「もの」を創造できる能力の育成

本研究では全ての学科において知的財産教育を導入し、そこで身に付けた思考力、判断力、表現力と技能を研究活動に生かして知的財産教育と専門教育の融合を図る。ここでは、単に権利取得や新商品開発を行うだけでなく「創造」についての考え方を身に付けさせ、栽培や生産方法の改善、測量や環境調査方法の工夫、新たな実験技術の考案等、農業の各分野に応用できる能力の育成を目指す。

①知的財産に関する基礎学習 【全学科】

製品や技術の開発を進める際に必要とされる創造力や実践力を培うために、発想技法やアイデア創出法を身に付けるとともに、産業財産権等の学習を行う。

②知的財産の概念を含めた製品開発や技術開発 【食品科学科】

新規に開発する製品や技術に付随する特許権、商標権、意匠権等の具体的な知的財産権に関わる活用力を習得する。

(第2年次から第3年次にステップアップする点)

①4つの産業財産権(特許権、実用新案権、意匠権、商標権)を中心とした知的財産権の制度や、概要及び創造・保護・活用について学ぶことで、知的創作活動を活性化させていく態度や能力を身に付ける。

②知的財産の活用を意識した製品開発や技術開発を研究活動に取り入れ、学校、地域、社会のリソースを活用した実践研究を行う。

③持続可能な開発のための教育実践として地域の課題解決を目指した研究を実践する。

(2) 地域の実態に応じた課題発見や課題解決能力の育成

地域資源を活用した産官学連携を更に強固なものにするために、各研究テーマの実施において

は、連携先(地域、企業、大学等)との関係強化を図るとともに、農業情勢の動向を把握したり、地域産業の現状を理解するなど、研究の方向性やその内容を熟考した上で実践的・体験的な学習活動を行う。

①新しい製品や技術の開発に向けた動向調査やマーケティング活動 【流通科学科・食品科学科・生物工学科】

消費者のニーズや消費性向の把握、生産技術の進展について理解を深め、商品開発や起業的な活動を推し進めるために、校外団体と連携を取りながら動向調査やマーケティング活動を行い、研究実践に繋がる取組を実施する。

②産業現場の見学を通じた地域産業の現状把握 【全学科】

県内外の農業生産団体や農業関連研究所、自然共生研究施設、食品製造工場、大手流通メーカーを見学し、関連産業現場の実態を理解するとともに各業界の現状と課題を発見し、研究内容の深化を図る。

③地域産業の課題発見と6次産業化の実践 【全学科】

県内の農業経営者や農業法人代表者、6次産業に取り組む起業家等、実社会で課題解決に積極的に取り組んでいる方を講師として招聘し、地域産業の現状と課題や6次産業化の有効性、経営ポイントに関する講義を実施する。

(第2年次から第3年次にステップアップする点)

①マーケティング活動については、企業、団体等と連携し、地域が持つ資源を活用するとともに、課題を解決するなど、新商品や技術を開発できる能力を育成する。

②GLOBALG. A. P. の認証取得を目指す地域農家等へ生徒の学習成果を活かした協働的な取組を行うとともに、海外での米を活用したマーケティングコミュニケーションを目指すための具体的な構想プランを立案する。

③消費動向調査については、開発商品にスポットを当て、地域産業の実態や消費動向や消費者指向を読み取ることができる調査内容へ範囲を広げる。(調査手法の研究)

④消費動向調査の方法については、連携する企業、団体等の協力を得ながら調査するほか、本校の農場生産物販売所での対面調査の実施や、地域全体に調査範囲を広げることで調査結果の有効性を高める。

(3) 安全で安心な価値の高い食品ブランドづくりができる能力の育成

本校では、加工食品の製造を通して多様な製品を広く提供している。今後、安全かつ高品質な食品を持続的に提供するために、単なる経験や勘に頼るのではなく、科学的な分析や記録等を根拠とした合理的な製造を進める必要がある。また、未利用資源の食品への活用についても持続的な循環型農業を実現する上で注目が集まっており、高度な資源活用技術が求められる。そこで、将来の地域産業を担う本校生徒が、地域の企業や機関等との連携により品質保証システム HACCP の認証取得を目指したり、バイオ技術を駆使して未利用資源の食用化を提案したりして、安全で安心な価値の高い食品ブランドづくりができる能力を育成する。

①地域素材を利用した高品質な特産加工品の開発とブランド化 【食品科学科】

- ・岐農ブランドの構築とPRに向けた広域連携(岐阜市、北方町、本巣市、大野町、養老町等)
- ・大野町及び株式会社ダイナック、JAいび川との連携による富有柿を使用した特産品開発及び

ブランド化

- ・ J A ぎふとの連携による岐阜市長良ぶどうを使用した特産品開発
- ・ 岐阜県農政部及び本巢里山ジビエ会等との連携による岐阜県産ジビエを用いた特産品開発
- ・ 旧徳山村 徳山原産唐辛子の普及と P R 活動
- ・ 品質保証を裏付ける高度な食品衛生・微生物研究

②未利用資源の活用と普及、技術開発 【食品科学科・生物工学科】

- ・ 株式会社岐阜セラック製造所との連携による夏みかんを使用した特産品開発とその P R 活動
- ・ 微細藻類資源作物（イシクラゲ）の生態・分布調査による生育環境解明と屋外生産圃場の確立
- ・ マイクロアルジェコーポレーション株式会社との連携による気生培養法を用いた微細藻類資源作物（イシクラゲ）の培養と大量増殖技術の開発、巨大な分割細胞の変化究明
- ・ 微細藻類資源作物（イシクラゲ）の活用をした商品開発、販路拡大とその P R 活動

③品質保証システム HACCP の概要に関する学習と認証取得への取組 【食品科学科】

- ・ 品質管理や作業体系等、食品企業の経営に求められる要素の基礎学習
- ・ 岐阜県保健所や岐阜県保健環境研究所等、食品衛生管理機関での研修
- ・ 一般的衛生管理プログラムの導入と検証
- ・ 品質保証システム HACCP の認証取得の取組

④品質保証システム HACCP の考え方を活用した生産と商品開発 【食品科学科】

- ・ 開発商品の製造工程一覧図の作成と現場検証
- ・ 開発商品の記録保存および文書作成要領の設定
- ・ 開発商品の製品説明書の作成
(HACCP 7 原則、12 手順の着手)

(第 2 年次から第 3 年次にステップアップする点)

- ①地域素材を利用した特産加工品の開発や未利用資源の食用実用化について、一定の成果を得たことから、商品の P R や普及、販路開拓と販売活動の拡大を目指し、地域活性化に貢献できるよう発展させる。
- ②品質保証システム HACCP の学習を継続するとともに、衛生管理に関する組織体制を定め、HACCP チームを編成し、岐阜県版 HACCP の取得を目指す。

(4) 生産方法を工夫した農産物ブランドづくりができる能力の育成

近年、環境に配慮した農業生産や経済的・社会的に持続可能な農産物の生産を通して、安全で高品質な農産物を生産、供給することが求められている。そこで、将来の地域農業を担う本校生徒が、地域の企業や機関等との連携により農業生産工程管理 GLOBALG. A. P. の取得を目指したり、AI・IoT 等の先進技術や IPM 技術等を活用したりして、生産方法を工夫した農産物ブランドづくりができる能力を育成する。

①水稻の品質向上と GLOBALG. A. P. の継続認証取得に向けた取組 【流通科学科】

- ・ 水稻栽培方法の可視化とスマート農業による栽培の合理化及び効率化を図る
- ・ GLOBALG. A. P. の継続認証に向けた取組
- ・ コメの P R 活動とブランド化

②次世代型トマト栽培技術と GLOBALG. A. P. 継続認証取得に向けた取組 【園芸科学科】

- ・ IPM 技術を含めた次世代型栽培の体系化についての学習
 - ・ トマト GLOBALG. A. P. 継続認証及びキュウリの GLOBALG. A. P. 新規認証に向けた取組
 - ・ トマトの販売方法の工夫
- ③ 高品質生乳の生産技術開発と JGAP 認証取得に向けた取組 **【動物科学科】**
- ・ 高品質生乳の生産技術開発
 - ・ 畜産 JGAP 認証取得に向けた取組

(第2年次から第3年次にステップアップする点)

- ① 生徒による米の GLOBALG. A. P. や野菜（トマト）の GLOBALG. A. P. 及び青果物（カキ）の JGAP の継続認証と、野菜（キュウリ）の GLOBALG. A. P. の新規認証取得を目指す。
- ② 次世代型栽培技術で生産したトマトを、高付加価値商品として販売ができるよう、流通の方法を工夫するなどブランド化を図る。
- ③ 畜産 GAP チャレンジシステムの確認及び JGAP の認証取得を目指すとともに、高能力牛の精液を使用し、牛群改良を加速させる。

(5) 環境に配慮した技術活用ができる能力の育成

岐阜県の県土はその8割を豊かな山林が占め、さらには恵みをもたらす水が豊富に流れる豊かな自然条件のもとで農業が営まれている。一方、地域によっては鳥獣被害や耕作放棄地の増加が著しく本県農業の重要課題とされている。本研究では、地域環境保全の観点に立ちながら地域農業の振興や社会貢献できるよう、新技術を活用した環境配慮型のブランドづくりができる能力を育成する。

① 地域の価値を高める里山の環境調査と保護 **【森林科学科】**

- ・ 植生調査の基本的な手法（データ収集、コンピュータ処理、分析技術等）の習得と実践
- ・ 本巣市船来山の植生調査と分析
- ・ 岐阜大学及び森林文化アカデミー職員等による講義、講演
（里山林を科学的、多面的にとらえる能力取得のための講義及び実習）
- ・ 公園設計のアイデア創出活動とワークショップ（里山を利用した体験講座）への参加
- ・ 地元ボランティアとの下刈り実習・意見交換

② 水田魚道を設置した水稻栽培など食料生産と生物多様性の保全を両立するシステムの開発

【環境科学科】

- ・ 岐阜県農政部との連携による本校水田を利用したシステム開発研究
- ・ 本校水田内に遡上する魚種及び遡上数の測定
- ・ 生物多様性に対する魚道設置効果の分析
- ・ 魚道設置による栽培農法の効果分析（食味検査等）
- ・ 年間を通じた水生生物のすみかとなる「江」の効果検証

(第2年次から第3年次にステップアップする点)

- ① 本巣市船来山の植生調査結果とその分析をもとにして、雑木（竹及びササを含む）、不要木の伐採と整備を進める。
- ② 国指定史跡の答申を受けた船来山古墳群の保存活用方法を本巣市とともに考案し、地域の里山

としての価値を高める取組へ発展させる。

- ③水田に設置した水生生物のすみかとなる「江」について、待避行動に関する研究や水管理に関する研究へと深化させる。
- ④生物多様性の維持と収量確保の関係についての検証や水田管理の新しい技術提案ができる取組を進め、特別栽培米基準内での栽培を目指す。

(6) 活動を通して身に付けた資質・能力の検証

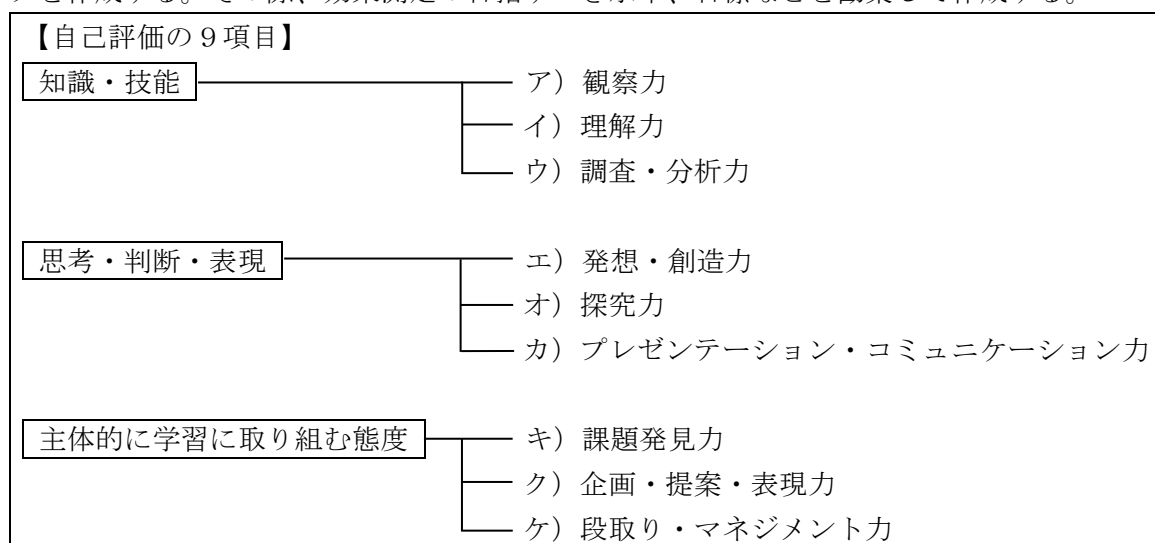
第2年次においては、取組を通して身に付けた資質や能力について検証ができるように評価項目を工夫した。第3年次ではこの評価項目に対するルーブリックを事業ごとに作成し、自己評価に加えて積極的な相互評価による学習到達度の把握を実施する。なお、他者評価については詳細な項目の全てを行うことは困難であるため、該当する項目のみで評価を行う。

①学びのロードマップの再構築と活用

取組の中にどのような学びの要素があるのか、どの場面で学ぶのか等について明示し、個々の学びによってどのような力が身に付くのかを示したロードマップを提示して評価、検証を行う。(検証と並行して、必要に応じて評価項目・ロードマップの改訂も行う。) また、ロードマップは共通教科を含む全教員が共有し、教科を越えて結び付いた指導の実現に努める。

②取組のプロセスを評価する研究(全教科におけるポートフォリオの活用及びルーブリックを示した自己評価、相互評価、他者評価の実施)

- ・取組ごとに実施する自己評価の項目を次のとおり設定し、評価を実施するためのルーブリックを作成する。その際、効果測定を目指すべき水準、目標などを勘案して作成する。



- ・ポートフォリオを活用して、設定したタームごとに自己の学習過程を振り返らせるとともに、取組ごとにルーブリックを活用した自己評価を積み上げて、累積した自己評価を俯瞰したり、変容を捉えたりする場面を設定し、教員もこれを活用する。その際、タームごとに自己評価の総括ができるような取組表や学年進行で学びを俯瞰できる取組表などを作成し、まとめさせる。
- ・タームごとに毎時の実施記録や収集した情報、調査報告等の成果物の整理をする機会を設けるとともに相互評価や他者評価を実施し、情報を共有、評価しあう場面を設定し、学習の進捗状況や取組の実現状況を把握させる。

- ・これらの取組から得られた情報や把握した取組状況は、企業や専門家からアドバイスをもらうための基礎資料としたり、学習指導の改善に活用するとともに、その成果を事業終了後（特に学習指導要領への移行後）も実践・継続できるように教育課程の編成に生かす。

（効果測定について）

本校が目指す人材育成に向けて各学科で作成したロードマップを活用して活動を推進し、それによって表れた効果や、以下に示す具体の目指すべき水準に照らして行う定性的及び定量的評価をもとに生徒の変容を検証する。また、アンケート調査については研究に参加した生徒及び研究に携わった教員のほか、運営指導委員、関係企業、行政、団体を評価者として実施し、それぞれの研究内容に対して生徒の満足度や理解度等を計るようにし、評価基準3. 5以上を目指す。

【評価基準】

- 4 とても理解できた〈とても満足できた〉
- 3 理解できた〈満足できた〉
- 2 やや理解できなかった〈やや不満である〉
- 1 理解できなかった〈不満である〉

研究内容	具体の目指すべき水準	定性的な目標	定量的な目標	効果測定
（１）「もの」を創造できる能力の育成				
①知的財産に関する基礎学習 ②知的財産の概念を含めた製品開発や技術開発	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産について正しく理解し発想技法やアイデア創出法が身に付いている ・新規製品や技術の開発において知的創造マインドを組み入れている 	<ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫する態度と能力の向上 ・開発力及び実践力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・製品、技術開発への取組数（7） ・アイデア創出数（7） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・行動観察 ・制作物(作品) ・自己評価 ・授業評価
（２）地域の実態に応じた課題発見や課題解決能力の育成				
①新しい製品や技術の開発に向けた動向調査やマーケティング活動 ②産業現場の見学を通じた地域産業の現状把握 ③地域産業の課題発見と6次産業化の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・動向調査やマーケティング活動が十分にこなされている ・各産業の現状把握ができる ・地域産業の現状と課題が提起できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動、実行力や表現力の向上 ・資料集積能力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・動向調査件数やマーケティング活動数(10) 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査内容 ・レポート ・行動観察 ・自己評価 ・授業評価
（３）安全で安心な価値の高い食品ブランドづくりができる能力の育成				
①地域素材を利用した高品質な特産加工品の開発とブランド化 ②未利用資源の活用と普及、技術開発 ③品質保証システム HACCP の概要に関する学習と認証取得への取組 ④品質保証システム HACCP の考え方を活用した生産と商品開発	<ul style="list-style-type: none"> ・地域素材を利用して高品質な特産加工品が開発できる ・未利用資源の食用実用化に向けて技術開発ができる ・HACCPに関する専門的な知識と技術が身に付いている ・岐阜県版 HACCP の認証取得へ向けた取組ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識や技術の向上 ・独創性や創意工夫をもって商品の開発を目指す ・HACCPに関する理解の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題をテーマにした研究課題取組数(5) ・コンテスト等への応募、出願、登録数(5) ・岐阜県版 HACCP 認証取得数(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施記録内容 ・行動観察 ・自己評価 ・連携先からの評価 ・授業評価

(4) 生産方法を工夫した農産物ブランドづくりができる能力の育成				
①水稲の品質向上と GLOBALG. A. P. の継続認証にむ けた取組	・水稲栽培の品質向上に向けた 取組ができる	・知識や技術の向上	・GLOBALG. A. P. 及び JGAP の 認証継続・取得数(5)	・実施記録内容
②次世代型トマト栽培技術と GLOBALG. A. P. 継続認証に向け た取組	・GLOBALG. A. P. に関する専門的 な知識と技術が身に付いてい る	・応用力や活用力の 向上	・ICTやAI、IoTなどを活用 したスマート農業の実現 に向けた取組数(4)	・行動観察
③高品質生乳の生産技術開発と JGAP に向けた取組	・GLOBALG. A. P. 水稲・トマトの 継続認証とキュウリの認証取得	・GLOBALG. A. P. 及び JGAP に関する理解 の向上	・校外の研究発表会での成果 発表数(4)	・自己評価
	・青果物(カキ)のJGAP継続認 証取得			・連携先からの 評価
	・畜産のJGAP認証取得			・授業評価
(5) 環境に配慮した技術活用ができる能力の育成				
①地域の価値を高める里山の環 境調査と保護	・里山環境の保護に関する専門 的な知識と技術が身に付いて いる	・独創性や創意工夫 をもって、里山環 境の保護を目指す	・校外の研究発表会での成果 発表(4)	・実施記録内容
②水田魚道を設置した水稲栽培 など食糧生産と生物多様性の 保全を両立するシステムの開 発	・里山の環境調査ができる	・知識や技術の向上	・民間企業や研究機関等と連 携した技術開の取組数 (7)	・行動観察
	・里山環境の保護に向けた取組 ができる			・自己評価
	・環境に配慮した構造物の施工 と管理ができる			・連携先からの 評価
	・食料生産と生物多様性の保全 を両立するシステムの開発に 向けた取組ができる			・授業評価
(6) 活動を通して身に付けた資質・能力の検証				
①学びのロードマップの再構築 と活用	・学びの内容と時期を理解でき ている	・学びのプロセスの 理解	・自己評価、相互評価ともに 効果測定評価基準3.5以上、 ルーブリックを用いた 評価のA率80%以上	・ポートフォリ オ
②取組のプロセスを評価する研 究	・ルーブリックに従い自己評価 できる	・自身の学びの位置 と取組の向上		・ルーブリック
	・ルーブリックに従い、相互評価 できる	・他者を評価し、自身 と比較して向上す る		・自己評価
				・相互評価
				・他者評価
				・授業評価

5. 実施体制

(1) 研究担当者

氏名	職名	役割分担・担当教科
田中 治	校長	企画運営・総括
吉田 勇人	教頭	企画運営：農業
伊藤 力	教頭	企画運営：農業
足立 伸幸	教諭	研究主務者：農業（研究開発部長）
井ノ浦華美	教諭	研究推進：農業（研究開発部副部長 食品科学科主任）
辻 浩幸	教諭	研究推進：農業（農場長）
三輪 孝司	教諭	教育課程：農業（教務主任）
樋田 新吾	教諭	教育課程：外国語（教務）

川島 茂樹	教 諭	キャリア教育：農業（進路指導主事）
大坪 尚子	教 諭	キャリア教育：数学（進路指導）
松尾 正	教 諭	研究推進：農業（流通科学科主任）
高島 一志	教 諭	研究担当：農業（流通科学科）
浅野 淳	教 諭	研究担当：農業（流通科学科）
田口 裕久	教 諭	研究担当：農業（流通科学科）
猪俣 佑介	教 諭	研究担当：農業（流通科学科）
松波 和彦	実習教諭	研究担当：農業（流通科学科）
吉倉 英明	実習助手	研究担当：農業（流通科学科）
柳原 大徳	実習助手	研究担当：農業（流通科学科）
牛丸 善博	教 諭	研究担当：農業（園芸科学科主任）
田口 健太	教 諭	研究担当：農業（園芸科学科）
池戸 祐太	教 諭	研究担当：農業（園芸科学科）
椿井真理恵	教 諭	研究担当：農業（園芸科学科）
上野 和博	実習教諭	研究担当：農業（園芸科学科）
酒井 治	実習教諭	研究担当：農業（園芸科学科）
高木 厚幸	実習教諭	研究担当：農業（園芸科学科）
村木 淑子	実習助手	研究担当：農業（園芸科学科）
松田実穂子	実習助手	研究担当：農業（園芸科学科）
大坪 太陽	実習助手	研究担当：農業（園芸科学科）
會田 遥奈	常勤実習助手	研究担当：農業（園芸科学科）
沖本 暢敬	教 諭	研究担当：農業（動物科学科主任）
三輪 孝司	教 諭	研究推進：農業（動物科学科）
古関 敬	教 諭	研究担当：農業（動物科学科）
大庭雄一郎	教 諭	研究担当：農業（動物科学科）
松原 有希	教 諭	研究担当：農業（動物科学科）
嶋田 颯	常勤講師	研究担当：農業（動物科学科）
福井 強志	実習教諭	研究担当：農業（動物科学科）
長屋 幸広	実習教諭	研究担当：農業（動物科学科）
廣瀬 大和	実習教諭	研究担当：農業（動物科学科）
杉山 聡	実習助手	研究担当：農業（動物科学科）
岡田 秀樹	教 諭	研究推進：農業（森林科学科主任）
子安 弘樹	教 諭	研究担当：農業（森林科学科）
山川 博枝	教 諭	研究担当：農業（森林科学科）
野々村篤司	実習教諭	研究担当：農業（森林科学科）
高崎 哲治	教 諭	研究推進：農業（環境科学科主任）
福井 義人	教 諭	研究担当：農業（環境科学科）
伊佐治幸代	教 諭	研究担当：農業（環境科学科）
遠藤 貴史	教 諭	研究担当：農業（環境科学科）
坪根 浩一	実習教諭	研究担当：農業（環境科学科）

井ノ浦華美	教諭	研究担当：農業（食品科学科主任）
加藤 守	教諭	研究担当：農業（食品科学科）
青木 祐太	教諭	研究担当：農業（食品科学科）
野村 悠奈	常勤講師	研究担当：農業（食品科学科）
藤川 聖也	実習助手	研究担当：農業（食品科学科）
長屋 貴	教諭	研究担当：農業（生物工学科主任）
中島 孝司	教諭	研究推進：農業（生物工学科）
藤木 俊之	教諭	研究担当：農業（生物工学科）
三浦 雄一	実習助手	研究担当：農業（生物工学科）

(2) 研究推進委員会（事業評価・PR・普及活動を含む）

氏名	所属・職名	役割分担・専門分野等
坂井 和裕	岐阜県教育委員会 学校支援課長	事業全般の指導・助言
中野 輝良	岐阜県教育委員会 学校支援課 課長補佐	事業全般の指導・助言
田中 治	岐阜農林高等学校・校長	事業全般の総括
高木 剛	岐阜農林高等学校・事務部長	経理担当責任者
吉田 勇人	岐阜農林高等学校・教頭	各担当者への指導・助言と産官学連携統率
伊藤 力	岐阜農林高等学校・教頭	各担当者への指導・助言と産官学連携統率
足立 伸幸	岐阜農林高等学校・教諭	研究開発部長
井ノ浦華美	岐阜農林高等学校・教諭	研究開発副部長・食品科学科主任
辻 浩幸	岐阜農林高等学校・教諭	農場長
三輪 孝司	岐阜農林高等学校・教諭	教務主任
川島 茂樹	岐阜農林高等学校・教諭	進路指導主事
松尾 正	岐阜農林高等学校・教諭	流通科学科主任
牛丸 善博	岐阜農林高等学校・教諭	園芸科学科主任
沖本 暢敬	岐阜農林高等学校・教諭	動物科学科主任
岡田 秀樹	岐阜農林高等学校・教諭	森林科学科主任
高崎 哲治	岐阜農林高等学校・教諭	環境科学科主任
長屋 貴	岐阜農林高等学校・教諭	生物工学科主任

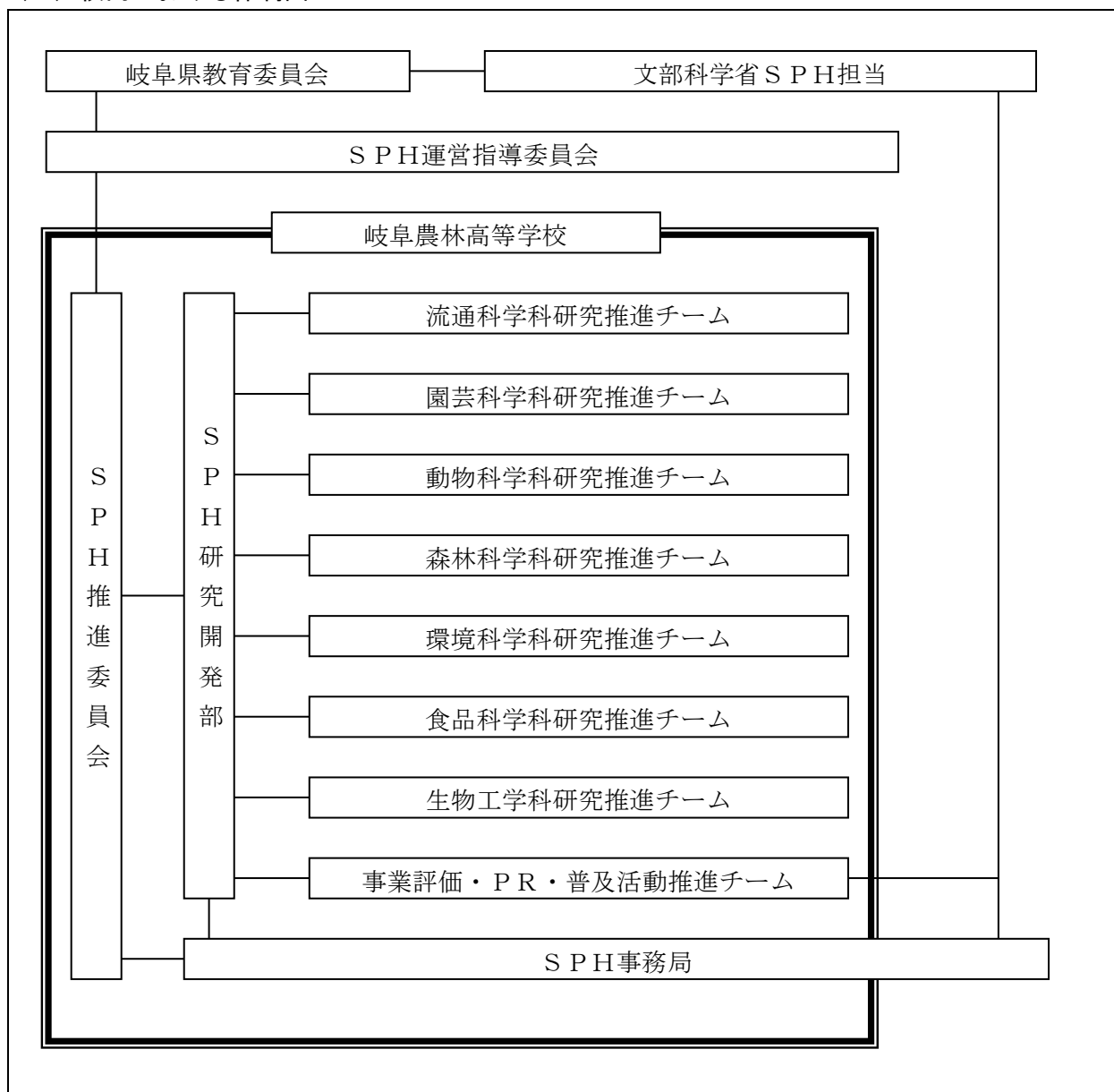
※ 岐阜県教育委員会からは必要に応じて出席することとする。

(3) 運営指導委員

氏名	所属・職名	役割分担・専門分野等
大熊貴久美	大熊農園 女性農業経営者	事業に対する指導・助言及び評価 (農業経営・6次産業化)
尾木 喬	株式会社岐阜セラック製造所 会長	事業に対する指導・助言及び評価 (起業家育成・知的財産教育)
田口 博史	岐阜県農政部農政課 課長	事業に対する指導・助言及び評価 (農業政策)

櫻井 宏	岐阜県農業協同組合中央会 会長	事業に対する指導・助言及び評価 (農業全般)
杉山 誠	岐阜大学応用生物科学部 学部長	事業に対する指導・助言及び評価 (農学)
戸部 哲哉	北方町 町長	事業に対する指導・助言及び評価 (地域連携)
長谷部健一	岐阜県農業技術センター 所長	事業に対する指導・助言及び評価 (研究開発)

(4) 校内における体制図



6. 研究内容別実施時期

研究内容	実施時期											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1) 「もの」を創造できる能力の育成 (1)-① 知的財産に関する基礎学習	← 産業財産権学習【全学科】 →											
(1)-② 知的財産の概念を含めた製品や技術開発に関する学習	← 新規製品の商標に関する学習【食品科学科】 →											
(2) 地域の実態に応じた課題発見や課題解決能力の育成 (2)-① 新しい製品や技術の開発に向けた動向調査やマーケティング活動	← 学校・地域・社会のリソース探究【流通科学科・食品科学科・生物工学科】 →											
(2)-② 産業現場の見学を通じた地域産業の現状把握	産業現場研修【全学科】											
(2)-③ 地域産業の課題発見と6次産業化の実践	← 農業経営者・農業法人代表者・起業家による講義【全学科】 →											
(3) 安全で安心な価値の高い食品ブランドづくりができる能力 (3)-① 地域素材を利用した高品質な特産加工品の開発とブランド化	← 岐阜市・北方町・本巣市・大野町・養老町広域連携【食品科学科】 →											
(3)-① 地域素材を利用した高品質な特産加工品の開発とブランド化	← 夏みかんの特産品開発とそのPR活動【食品科学科】 →											
	← 富有柿の特産品開発【食品科学科】 →					← 富有柿の特産品開発【食品科学科】 →						
	← 長良ぶどうの特産品開発【食品科学科】 →											
	← 岐阜県産ジビエの特産品開発・徳山唐辛子の普及【食品科学科】 →											
(3)-② 未利用資源の活用と普及、技術開発	← 乳酸菌を用いた微生物実験と加工食品の開発【食品科学科】 →											
	← イシクラゲの生態・分布調査【生物工学科】 →											
	← イシクラゲの培養・増殖技術の開発【生物工学科】 →											
(3)-③ 品質保証システムHACCPの概要に関する学習と認証取得への取組	← イシクラゲを用いた商品開発とそのPR活動【生物工学科】 →											
	← 品質管理の学習【食品科学科】 →					← 食品衛生管理機関の研修【食品科学科】 →						
	← 一般的衛生管理プログラムの導入【食品科学科】 →											
(3)-④ 品質保証システムHACCPの考え方を活用した生産と商品開発	← 仕入れから製品化までのフローダイアグラムの見直し【食品科学科】 →											
	← 開発商品の記録・文書作成要領の設定【食品科学科】 →											
	← 開発商品の製品説明書作成【食品科学科】 →											
	← 品質保証システムHACCPの認証取得【食品科学科】 →											
(4) 生産方法を工夫した農産物ブランドづくりができる能力の育成 (4)-① 水稲の品質向上とGLOBALG. A. P. の継続	← 水稲栽培の可視化【流通科学科】 →											
(4)-① 水稲の品質向上とGLOBALG. A. P. の継続	← GLOBALG. A. P. の継続認証の取組【流通科学科】 →											
	← コメのPR活動【流通科学科】 →											
	← GLOBALG. A. P. 及びJGAP継続認証【流通科学科】 →											

認証 (4)-② 次世代型トマト栽培技術と GLOBALG. A. P. 認証および継続				
(4)-③ 高品質生乳の生産技術開発と JGAP 認証 に向けた取組				
(5) 環境に配慮した技術活用ができる 能力の育成 (5)-① 地域の価値を高める里山の環境調査と 保護 (5)-② 水田魚道を設置した水稲栽培など食料 生産と生物多様性の保全を両立するシ ステムの開発				
(6) 活動を通して身に付けた資質・ 能力の検証 (6)-① 学びのロードマップの再構築と活用 (6)-② 取組のプロセスを評価する研究				

※ 実施の時期は事業計画書提出時のものであり、実際の事業着手は契約締結後とする。